

佐藤学先生国頭村奥間小学校訪問



H30.2月の13日(火)、14日(水)2日間、学習院大学の佐藤学先生を招聘しての村内の学校の訪問と授業研究会が行われた。13日には、国頭中学校の参観と辺土名小学校における公開授業と授業研究会、佐藤先生の講演が国頭村教育委員会主催ですすめられた。14日には午前中に奥間小学校の参観と午後はへき地校の安波小学校で公開授業研究会



と講話があった。私も村瀬先生と共にすべての学校訪問に同行し、国頭村の先生方や子ども達の様子を参観させていただきました。あらためて国頭村教育委員会と、参観させていただいたすべての学校と先生方に感謝と敬意を表します。今回のRシートは奥間小学校について記させていただきます。

[1年] 教室に入った途端に何とも言えないしっとり感が私の皮膚細胞を刺激した、「しっとりした安心して授業に向かえる空気のある教室。」私の言葉では表現することがかなり難しいのであるが、確かに感じるモノがある。写真やビデオでもうまく伝わらない、教師や子どもの表情、交わされる言葉、教師と子ども達の呼吸、なんとなくほんわかした雰囲気、競争や言い合いがなくしっとりした空気が教室を包む。



写真①、なんとなくすでにペアが形成されているのが分かるだろうか？ワークシートをわたされて、名前やめあてを書いている段階である。わずか1分後が下の2枚の写真である。



子ども達は躊躇なく訊き合い「なんで？」を探求していった。わずか5分ほどの参観であったが、私は「安心と癒し」の感に浸っていた。

[2年] 『共通理解と共通実践』



このクラスも先ほどの1年生のクラスと同様の空気が漂っている。左の写真、なんとなくペアが肩を寄せ合っているのが感じられます。下の写真全クラスが同じような背面掲示をされており、子ども達の作品が大事にされ整然としています。



「静然とした学びは、整然とした環境でしか生まれません。素晴らしい奥間小の共通実践です。右の写真、教師のケアの姿です。

どこの学校、どんなクラスにも必ず存在します。この子達にとって居心地のいい教室を準備するのも、私たち教師の使命だと受け止めましょう。わたし達教師の行為や言葉が彼を成長させてくれるのだという確信を持ってすべての教室で具現化していくことが、子ども達のための学校を成立させるのです。



写真②、発表を依頼された仲間の相談にのる仲間達、実に自然にきき合っていました。これで発表者が得たものが「安心」であることを、確認しておきたい。

[授業者のK先生へ]

奥間小で1年が終わろうとしています。4月赴任時からよくここまで頑張ってくれました。4月当初の自分と、今の自分との変容をぜひ整理していただきたい。神奈川県のある郷小学校元校長の大瀬先生は、授業を変えるのは「教師の当事者意識」が一番大切だと書き下ろしていました。しかし、現実として意識を変えるというのは簡単なことではありません。私はむしろ、行動を変えることによって、見方や考え方が変わり、意識の変容が起こるものだと考えています。まずは、「模倣してみる」という行動が大切だと考えます。自分にとっての課題や困難の克服に向かうK先生へサリバン先生の言葉を2つ贈ります。

- ☆ 「失敗すればやり直せばいいの、そのたびにあなたは強くなるから。」
- ☆ 「どんなささやかな成功にも、他人の目に触れない挫折や苦難の道を経ているものなのよ。」



本日の訪問、ほんとにわずかな時間でしたが子ども達の表情に安心をもらい、先生の変容に脱帽でした。

「テンションを下げ、語るように話す。」
ありがとうございました。(志)

[2 校時焦点授業 3 年 算数 授業者 H 先生 (初任者)]



奥間小で 2 カ年の臨時職員の経験を積み今年度は初任者として教壇に立つ。

この教室も 1・2 年と同じ空気である。「いつの間に？」が私の本音でした。授業も驚くほど子ども達の学びの質が高い。担任も少し余裕さえ感じられる。低いテンション、柔らかな表情、つぶやきと支え合い、一人残らず、すべてが淡々と教室の中で成立している。

静かな子ども達も、取り残されず、仲間に支えられながら僕なりに参加し、学びの恩恵を受ける。

聴き合うことに躊躇なく、訊かれたら寄り添うことを惜しまず、「分からない？」、「なんで？」の言葉が全く自然に子ども達の中で行き交う。

教師の中で何かが起こっている。本人が意図的なのだろうか？それとも案外自分の変容に気づいていないことも考えられる。授業ビデオに映る子ども達の対話の様子や、表情をぜひ奥間校の職員で確認してほしい。素晴らしい授業でした。感謝



[3 枚の写真] 支え合う子ども達の力

授業の中頃、授業者は男の子に指名した。「4mmは何cmになりますか？」これも意図的であると考えられる。挙手は求めない、弱い子ども達を中心に発問が下ろされるのがこの学校の特徴である。普通の授業だと教師はできた人に挙手を促し、できる子どもの発表で区切りをつけて進行するが、この行為によって取り残される子が確実に居ることを知っておきたい。下の 2 枚の写真、男の子を支える 2 人の女の子、

「1 ミリは 0.1 2 ミリは 0.2 3 ミリは 0.3 じゃあ 4 ミリは…」発表を促す。私はこの 3 名のやり取りに感激を超えた思いに至った。この男の子に分かってもらえるための言葉は、間違いなく授業者よりも仲間達の方が心得ていることを改めて知らされた、教えられた気がした。

右の写真、女の子たちに発表を促されて授業者に応える (答える) 男の子。このシーンで恩恵を受けたのは…誰？



[H 先生へ]

素敵な授業ありがとうございました。だいぶ変わりました…あなたが確実に変容しました。教えていただきたいくらいです。何がきっかけだったのですか？子ども達のあなたへの信頼も、あなたが見せる行為や言葉に支えられて教師や仲間が信じ合えるのです。「いつの間に」正直言ってここでも脱帽です。

[4 年] このクラスも、1・2・3 年と全く同じ空気でした。



私たちが教室に入った時には「学び合い」真っ盛りでした。どのグループも夢中になって聴き合っていました。左の 2 枚の写真は、どちらも女の子が男の子を支えているところです。「分からない」男の子達も、実に素直にきき入っていました。さらに素敵なのが、マスクをした女の子が、男の子に対し「ちゃんと聴いてよ」と促しているシーンがあったことです。学級員みんなが素敵な関係です。これも授業ビデオでぜひブツブツ、ボソボソを確認してほしいものです。学び合いは「分からない」ことを互いで訊き合い、探究と解決に至るプロセスの中にあります。

右の写真、教師の絶妙な距離感です。上の写真は手を伸ばし子どものワークシートで「つなぐ」です。下の写真は子ども達による解決を見守る授業者です (右上角)。何でもかんでも教師が引き受けるのではなく、子ども同士の力で解決に向かう力を身に付けさせたいものです。(これは PISA からの提言です。)



奥間小学校の皆さん授業公開ありがとうございました。素敵な校風が心地よいです。教師も子ども達も同じ方向に向かっていくことが何より素敵です。1 校時の参観を終えたときの学先生の言葉です。

「本土に学校を見に行っている場合じゃないよね、本土の学校が奥間小から学ばなければいけないよね」「自分たちのセミナー (学びの共同体セミナー) をここで開催したいくらいだね。」

次年度に向けて、さらに焦らず淡々と今の授業づくりに邁進することを期待します。私も久しぶりに拝見することのできた、「すべての教室が…すべての教師が…でした。」
国頭学びの会ゆい